



特集

TCMが、 変わります。

1907年に東京・神田の地で開校し、
日本で最も古い私立音楽大学としての
歴史を有する本学。

伝統を重んじながらも変化を恐れず、
教育のあるべき姿を求めて、挑戦し続けてきました。

目指すのは、音楽と教養をしっかりと身につけ、
自らが希望する分野で

広く社会に貢献する人材の育成。

新キャンパスの建設、吹奏楽アカデミー専攻の開設、
開講2年目を迎えた

ミュージック・リベラルアーツ専攻 (MLA)、
さらに英語教育の強化——。

「TCM Journal 47号」は、4つの特集で、
進化するTCMの“今”をご紹介します。

CHANGE

TCM

TCMが、変わります。

CHANGE

TCM

新キャンパスの最新情報をお届けします！

2019年4月、中目黒・代官山エリアに誕生するTCMの新キャンパス。開校まで1年を切り、施設や環境、そこで待ち受けるキャンパスライフの全貌が見えてきました。皆さんの「知りたい！」に答える最新情報を、まとめてご紹介します！



2016.8
工事着工直前!

2017.9
2階床躯体施工中!

2018.5
建物4階躯体完成!

2019年4月、開校!

学部2年生以上は、主に新キャンパスで授業・レッスンをを行います。

1年生が受講する授業および合奏は池袋キャンパスで行い、2年生以上が受講する授業、およびすべての実技レッスンは、新キャンパスでの開講を予定しています（映画・放送音楽コースを除く）。池袋キャンパスのJ館校舎には今後、付属高等学校が移転し、さらに質の高い高大一貫教育を目指します。

最先端の録音・録画スタジオ、レッスン室を完備します。

最先端の音響設備を備えた録音・録画スタジオは、新キャンパスの特色です。大中小、用途に合わせて使える各種レッスン室を80室以上用意し、全学生の実技レベルの向上に役立てます。さらに録音・録画スタジオを活用し、全専攻の学生が音楽製作技術を習得する講座の開講も検討中です。



最適な環境、施設が揃う新キャンパスで次世代音楽文化の創造を

2013年に始動した新キャンパスプロジェクト。本プロジェクトの目的は、IT技術と融合した音楽教育による人間力豊かな人材の育成、そこから創出される芸術・文化の積極的な発信と地域貢献です。中目黒・代官山エリアを選んだ理由として、鈴木勝利理事長は「文化的親和性の高い地域」である点を挙げます。中目黒・代官山エリアは、芸術性・国際性・伝統がある街です。この地で学びが豊かな音楽の創造につながることを目指しています。デジタルメディア技術を活用した最新設備、特に録音・録画スタジオは、新キャンパスの特色です。学生が自ら音楽を作り、発信し、世界とリアルタイムでコミュニケーションをとる時代に即した施設は自主性を高め、将来への可能性を広げる場となります。



知りたい!

キャンパスライフはどう変わるの?

校舎の使い分け、利便性、設備……。気になるポイントを解説します!



場所は中目黒代官山。恵比寿駅からも徒歩圏内です。

目黒川にほど近く、都心にありながら自然豊かな立地は、音楽に携わる学生の芸術性・創造性をはくむ環境です。桜の名所でもある目黒川沿いは、感受性の鋭い若者はもちろん、外国人も多く行き交い、その文化的な雰囲気も刺激になるはず。最寄り駅である中目黒駅と代官山駅からキャンパスまではそれぞれ徒歩約5分です。さらにJR山手線恵比寿駅からも徒歩約15分で、環境に加え、利便性も大きな魅力です。



カフェも併設されます。

新キャンパス内に併設されるカフェは、一般的な「学食」のイメージを払拭するおしゃれなレストラン風。木々の緑に囲まれた開放的な空間で、思いおみの時間を過ごすことができます。

理事長自身、「冒険」と表現する今回のプロジェクト。その目標は、大学の枠を越え「日本の新たな音楽文化創造のための挑戦」です。2019年4月、ここぞどんなキャンパスライフが始まるか、ぜひご期待ください!

知りたい!



施設のこと、詳しく教えて!

新キャンパスの敷地構造をお披露目！
コンセプトから、建物の魅力まで、設計担当者に聞きました。

>> 録音・録画スタジオ

7.1chサラウンド対応の音響システム、4K対応の映像収録機材を備えた最新スタジオは、新キャンパスの特色です（詳しくはP8でご紹介）。

最適な響き



>> 音楽ホール

「池袋キャンパスTCM創立100周年記念ホールのクールなデザインに対し、新キャンパスのホールは木々を感じるウォームなデザインとなっています。400席と小規模でありながら、高い天井と広いステージを設けることによって、ソロ、デュオはもちろん、室内オーケストラも最適な響きで演奏、鑑賞することができます。仕上げの素材、木壁の角度や大きさ、椅子の仕様に至るまで、ホール内のすべてが“よい音”のために設計されています。（日建設計エンジニアリング部門音響設計担当主管 青木亜美）

まなびの広場

>> 中目黒側入口



>> 代官山側入口



文化の広場

>> オーケストラ広場

キャンパスの中心に位置し、武蔵野の森を再生した「音楽の森」がある静かな広場です。ここでは、学生たちの憩いの場であるとともに、地域の方々との交流が生まれる場でもあります。

地域に溶け込む音楽



緑と音楽あふれる敷地。街とのつながりのなかで学べる場を目指して

設計を手がけられた立場から、新キャンパスのコンセプトについてあらためて教えてください。

「新キャンパスの建設地は、都心にあります。緑や生き物の生態系が豊かな場所であるとともに、中目黒と代官山をつなぐ接点に位置し、文化的にも情報の受発信地としても、近年注目されている場所です。このキャンパスで、未来ある若者たちが音楽や文化・社会と共鳴しあい、エネルギーを生み出す、新しい学びの場の創造」を目指しました。（戸田建設 建築設計統轄部建築設計部主管 加藤亨・以下同）

イメージボードからは緑がとて

緑の環境プラン大賞!

>> みどりの鎌倉街道

新キャンパス西側の目切坂が源頼朝の開いた幕府へ通じる鎌倉街道であったこと、かつてこの地が武蔵野の森だったことこのふたつの歴史に着目し、キャンパス内に中目黒と代官山を結ぶ緑豊かな『みどりの鎌倉街道』を蘇らせます。植栽計画には新植だけでなく、地域に愛された樹木の保存もあります。なかでも桜は保存に加え、挿木による遺伝子を継承した品種を新植。さらに水景の導入により、目黒川の桜並木と連続性をもたせます。多くの樹木・草花によって都心でありながら四季折々の風景を感じられる場所に。この『みどりの鎌倉街道』は、都市緑化機構/第一生命財団が主催する第28回緑の環境プラン大賞特別企画『おもてなしの庭』部門の大賞を受賞しました。



※名称はすべて仮称、画像はイメージです。

も多く、ひらけた印象を受けます。どのような意図がありますか？

「キャンパスのさまざまな場所から緑や光・自然を感じられる心地よい空間構成としています。キャンパス内に設けられた4つの広場や中目黒と代官山を結ぶ『音楽のみち』は、学生と『まち・人・さまざまなこと』との接点です。偶然の出会いや交流、多様な体験の場となることを意図しています」

新キャンパスの構成イメージを教えてください。

「中目黒側は大学の顔となる『ゲート』がモチーフのデザインとしています。ここを抜けると『音楽の森』を囲むようにレッスン室・練習室・教室・音楽ホール・カフェテリア・クリエイティブラボが配置されています。これら『学びの場』と緑豊かな外部空間が緩やかにつながり、森の中を回遊するような心地よさが生まれ、音楽家としての感性が昇華されることを意図しています」

建物のデザインの特徴は?

「建物は周囲の街並みや緑と調和する素材とし、特に低層部の外壁は木目が転写された柔らかな表情のコンクリートとしました。水平ラインを基調としたデザインは、TCMが積み上げてきた歴史と、これから積み上げる未来を『層』として表現した

教室・レッスン室にはどんな工夫がありますか?

「レッスン室・練習室、教室は最適な音響を実現するために壁や天井の形・素材を工夫し、それをデザインにいかしています。特に、レッスン室は木の素材を用い、明るく優しい印象をもたせています」

私たちも新キャンパス完成を心待ちにしています！

「地域との共生」を掲げる新キャンパスプロジェクトへは、学外からもたくさんの期待の声が届いています。

卒業生との幅広い交流の場に

111周年を迎えた歴史あるTCMに、今世紀にふさわしい情報発信地である「中目黒・代官山キャンパス」が完成することを心待ちにしています。

私は付属高校入学から大学卒業まで、そして講師として約半世紀にわたり本学と関わってまいりましたが、池袋キャンパスの充実と発展には隔世の感があります。また、新たに中目黒・代官山という地への進出に、期待が膨らんでおります。緑豊かな環境でありながら、国際的・文化的レベルの高いまちづくりの一環に請われての新キャンパスで、新しい地域の皆さまとの交流をもつことで、学生にとって刺激があり、学ぶことも多々あると思います。さらに、卒業生である私たち校友会との幅広い交流をもてる場であることも期待しております。ますます便利になる周辺地域の変化をとらえて、発想力と創造性が広がっていくと思います。

校友会会長 井田 康子

区にとっても大きな存在となることを期待

近年の中目黒は、個性的な店舗や目黒川沿いの散策を楽しむ人気のまちであり、クリエイターや最先端カルチャーなど時代に敏感な人びとが集うまちへと発展しています。また、隣接する代官山エリアでは、閑静な住宅街やビルサイドテラスなど洗練された大人のまちとして、多くの人が訪れています。

こうしたなか、TCM新キャンパスは、中目黒と代官山をつなぐ核として、多くの人々が行き交い、音楽芸術を感じる場となるとともに、音楽を世界へ発信する拠点として、目黒区にとって大変大きな存在となることを期待しております。また学生の皆さんが、多様な人々と文化と出会い、成長の舞台として「まちと協奏する」ことができるよう、区としてもまちづくりの取り組みを通じて応援してまいります。



目黒区長
青木 英二

東京目黒ロータリークラブ創立50周年記念式典・祝賀会 東京目黒ロータリークラブより

植樹のご寄付をいただきました！

創立50周年を迎えた東京目黒ロータリークラブが、記念事業として中目黒・代官山キャンパスを緑のキャンパスとするため、多くの樹木を寄贈してくださいました（諸費用を含む金500万円）。5月17日、同クラブ創立50周年記念式典・祝賀会にて、植樹目録の贈呈式が行われました。

冒頭の挨拶にて、同クラブの羽田伊助前会長は、「ひとり1本の植樹」という国際ロータリー/イアン・ライズリー前会長による提案を思案していたところ、TCMとめぐり合い、鈴木理事長の許しを得て新キャンパス内に一般の方々も利用できる『音楽の森』を実現することができました。これを機にTCMと奉仕の絆を深く地域に役立ってまいります」と、植樹の意義を紹介。青木英二目黒区長も登壇し、「目黒区に新キャンパスを開校するTCMは、都内に新設される最後のキャンパスとなるかもしれません。地域に開かれたキャン

パスを作るという鈴木理事長のご意匠に感銘をうけており、目黒の地域経済の活性化につながることを大いに期待しています。TCMの皆さん、目黒区民の皆さん、ロータリークラブの会員の皆さんが力を合わせて、目黒の文化を発展させていきたい」と、期待を示しました。

植樹目録の恵贈を受けた鈴木勝理理事長は、「新キャンパスは、『緑に駆け込む』『地域文化に駆け込む』『防災の拠点』というコンセプトを掲げています。植樹のご寄贈は『緑に駆け込む』キャンパスを実現させるものです。今ある樹木ではなく、武蔵野の自然の森を再生すべく、季節折々の固有種を1本1本こだわって選定しています。音楽と駆け合い、文化を感じられるようなキャンパスになればと願っています。地域の発展、世界に向けた文化の発信のため、永らく皆さまとともに力を尽くしてまいります」と、表明しました。



上/羽田前会長から植樹目録の恵贈を受ける鈴木理事長。中/新キャンパスへの期待を表明した青木目黒区長。下/開会に先立ち、大谷康子教授ヴァイオリン演奏、山崎早登美講師ピアノ伴奏、学生3人による記念コンサートを開催し、会場を沸かせました。

録音・録画技術を知れば、音楽の世界は広がります。

CHANGE



知りたい！

録音スタジオが
スゴいらしい！

最新鋭の録音・録画スタジオも特色のひとつ。設備の見どころだけでなく、そこに込められたTCMの新たな決意に注目です。



音と映像を自分の武器とするために。

全学生が活用できる録音・録画スタジオ。何を目的とし、どんな設備を備え、どう使われていくのかをご紹介します！

7.1chサラウンド&4K対応の最新スタジオ。

音響システムは、7.1chサラウンド対応(2ch、5.1chも可能)。まるでヨーロッパの劇場やホールのような、前後上下左右360度方位からの音響も体感できます。さらに日本に数台しか導入されていないアナログ・ミニカー卓も設置。アナログ収録による最高品質のマスター音源は、その後デジタル圧縮なども自在です。映像収録は4Kにも対応。編集やMAなどについても、多くの知識を学ぶことが可能な環境です。

設備

監修はこの人！ 株式会社 豊島総合研究所 豊島 政実

当スタジオの音響コンサルタントとして最も心を砕いたことは、スタジオにも展開される「まちと協奏するみどりの中の音楽大学」のデザインコンセプトをいかに消化して音響設計に取り入れ、最高のスタジオに仕上げるかという点でした。自然光を取り入れるための天窓にはアビードスタジオで成功した音響処理を施しました。正面壁の大型の幹のイメージは音響拡散体として、さらに幹から伸びる光の枝の間から見える天井はパネルにより反射と吸音のパランスをとりました。仕上げはすべて暖かい響きを作る木質と布を使用しています。天井からスタジオの床にこぼれる自然な光とあいまって、豊かな響き心地よい音の空間を醸し出し、演奏者たちをインスパイアします。



目的

音楽のエキスパートとして録音・録画を学ぶ。

現在、ほかのあらゆる分野同様、音楽の世界でも「自ら発信していく力」は、重要なスキルとなっています。そして、音楽の主體的な発信にあたり、今後必ずその一助となるのが録音・録画の知識です。新キャンパスでは、全学生を対象に、「音楽を録るといことはどういうことか」ということから学べます。すべての学生が、ここで音楽のエキスパートとしての大きな武器を手に入れることが目標です。

使い方。

授業はもちろん各オーディション収録に対応。

スタジオの使用は、TCMのすべての学生が対象。録音の基本から、知識のみならず、技術を学ぶ場として授業に活用されます。さらに、オーディションに提出するための音源素材収録などの目的でも使用可能。ほかにも、オーケストラや吹奏楽の定期演奏会前の録音、アンサンブル授業での使用などをおし、学生が自らの演奏を確認することが可能となります。

レコーディングは演奏と緊密な関係に。その知識を、実地で学ぶ

知識と技術があれば、自作の音源を自宅から全世界へ向けて配信することが可能な時代。プレイヤーにとっても、録音・録画のスキルは必須のものとなりつつあります。TCMでは、そんな時代のニーズに対応すべく、新キャンパスに最新設備を備えた録音・録画スタジオを設置。ホール、スタジオ、オーケストラ専用練習室の3施設をリンクし、そこで収録した作品は配信やアーカイブにより随時閲覧可能となる予定です。

アーカイブされた素材は、学内、学外、ひいては世界に向けて発信。全学を対象に、コンサート、公開授業の録音・録画、学生の演奏・作品の発表など、さまざまな目的で活用される予定です。

伝統あるクラシック界も例外なく変化し続けている昨今。オーディション用の音源素材のよし悪しが何によるものかわかること、マイクの位置ひとつによる、音の劇的な変化を知っていること。レコーディングについて学ぶことは、プレイヤーに限らず、音楽に携わるすべてのエキスパートにとって必ず大きな武器となるはずですよ。